

2012 年 7 月 13 日(金)19:00～ 弊社会議室にて、
第 2 回キャリアセミナー「これからの国際税務を考える」を開催しました。

既に国際税務を経験されている方、これから挑戦してみたいと考えていらっしゃる方、
それぞれの背景はさまざまでしたが、これからの将来について
前向きに意見を交わしあう、有意義な時間となりました。



司会は、入社 7 年目の梶本。
関西人ならではの軽妙なツッコミを織り交ぜながら、
テンポよく、会を進行。



[マネジャー 梶本岳]

トップバッターは、マネージングパートナーの佐藤陽一郎。
「その昔、知識でお金をもらえた時代があった」
という話からスタート。未来を強く生きていくためには
何が必要なのか、ということを考える時間に。
「これからインバウンドはやるべきだと思うか？」といった
参加者の意見・判断を問うようなやりとりも。
“広いフィールドで戦う勇気”の重要性を
感じさせる内容でした。



[マネージングパートナー佐藤陽一郎]

次に登場したのは、パートナーの田中です。
前半部分は、事業と仕事内容が中心。
タックスヘイブンや移転価格など自らが
立ち上げに関わったエピソードをからめながら、
法人紹介。
新しい分野にチャレンジするたびに、税務とは
関係のない仕事も多く経験したとのこと。
しかし、だからこそ税務の幅が広がった、という話
が印象的でした。



[パートナー田中秀治]

続いて、先輩体験談のコーナー。

1 人目は、現在 30 歳で入社 2 年目の樽松。

国際税務を志したきっかけ、顧客とともに成長していく喜び、
海外研修のことなど、自らの体験談を紹介。

「外国税務申告を 5 年やってから次のレベル、では遅すぎる」

「うちでは最初からスポット業務にもチャレンジできるから、高みを目指せる」

と言う先輩・梶本の飛び入りコメントに、共感する人も多かったようです。



[アシスタントマネジャー 樽松貴]

座談会は、2 チームにわかれておこないました。

－専門性と総合力、どちらを重要視して力を磨くべきですか？

－漠然と、国際税務に携わりたい。キャリア選択で大切すべきことは？

「常に社会に目を向け、税務以外のことも話ができるといい。ただ器用貧乏にならないように」

「何か 1 つでいいから、キラリと光る強みを育てることがとても重要」



－英語力に自信がない。どうやって勉強すべき？

「国際税務は、まずやってみることが一番。」

知識があれば必然的に英語力もついてくる」

「国際税務に携わっていても、顧客の前に出ずに申告業務ばかりだと英語も上達しない」

－英語力はどのくらい必要ですか？」

「通常の英語力とはちがうし、英語はツールのひとつ。」

英語ありきで考えるのではなく、税務知識がきちんとあるかどうか。基本的な英語力があれば大丈夫」



最後に、採用担当の田代より、ごあいさつと連絡事項。

「わからないことがあれば、メールでも電話でもけっこうですので、いつでも連絡くださいね」

「国際税務のこれからを考える」

少し大きすぎるテーマだったように思いますが、

参加者のみなさんのおかげで、

静かに、そして熱く、盛り上がる会になったように思います。

税理士法人勤務(大手・中小)、事業会社勤務、経営者。

それぞれの居場所は違うものの、

違うからこそシンプルな意見交換も新鮮に感じられる。

ディスカッションを聞きながら、そんなことを思いました。

「自分の経験のなさが不安でしたが、今回のセミナーで勇気づけられました(Aさん女性)」

「代表の佐藤さんの“知識だけではいけない”という話が印象に残りました」(Kさん男性)

「インターネットでいろんなことが知ることができる時代。何を磨くべきか、改めて考えさせられました」(Sさん男性)

「ただ提案するだけでは足りない。現場レベルの運用までサポートする、といったスタンスに共感しました」(Hさん男性)

おなじ志を持つ人たちが集まれば、

明日への活力がもっともっと湧いてくるはず。

当初の企画の目的が少しでも果たせたのではないかと、

みなさんのアンケートを読みながら、嬉しく思いました。

参加くださったみなさん、どうもありがとうございました！

リクルーティングチーム一同